

研修参加報告書

令和4年10月17日

会 派 名 江南藤クラブ
代 表 者 大藪 豊数

(参加者： 堀 元 、大藪 豊数)

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年 月 日	令和4年10月13日(木)～10月14日(金)
講演時間	13日 9:30～17:00 14日 9:30～12:00
会 場	出島メッセ長崎
講演内容	第1日 10月13日(木) 09:30 開会式 09:50 基調講演 民間主導の地域創生の重要性 11:00 主報告 長崎市の魅力あるまちづくり 13:30 一般報告 地域との新しい関わり方・関係人口 14:50 一般報告 ビジョンを活かしたまちづくり 15:50 一般報告 「交流の産業化」を支える景観まちづくり 第2日 10月14日(金) 09:30 パネルディスカッション 【テーマ】個性を活かして「選ばれる」まちづくり ～何度も訪れたい場所になるために～ 11:50 閉会式

研修参加報告書

年月日	令和4年10月13日(木)～10月14日(金)
研修時間	13日 9:30～17:00 14日 9:30～12:00
研修場所	出島メッセ長崎
研修内容	<p>第1日 10月13日(木)</p> <p>09:30 開会式</p> <p>09:50 基調講演 民間主導の地域創生の重要性</p> <p>11:00 主報告 長崎市の魅力あるまちづくり</p> <p>13:30 一般報告 地域との新しい関わり方・関係人口</p> <p>14:50 一般報告 ビジョンを活かしたまちづくり</p> <p>15:50 一般報告 「交流の産業化」を支える景観まちづくり</p> <p>第2日 10月14日(金)</p> <p>09:30 パネルディスカッション</p> <p>【テーマ】個性を活かして「選ばれる」まちづくり ～何度も訪れたい場所になるために～</p> <p>11:50 閉会式</p>
<p>■目的</p> <p>個性を活かして「選ばれる」まちづくり ～何度も訪れたい場所になるために～</p> <p>・継続的・定期的に訪れてもらうことの意義</p> <p>(1) 地域外の人が多様な関りがもたらすもの</p> <p>(2) 継続的・定期的に訪れてもらう機会や仕組みづくり</p> <p>・「何度も訪れたい」場所になるために</p> <p>(1) 地域特有の資源を活用する</p> <p>(2) 交流・参加の機会をつくる</p> <p>(3) 新しい働き方の場を提供する</p>	

■内容

第1日 10月13日(木)

●開会式●

○開会挨拶

全国市長会会長 福島県相馬市長 立谷 秀清 氏

3年ぶりの開催である。

今回の会議には、全国から2,100名が参加されている。

国に対してはワクチンの適切な配布をお願いしている。

民間主導の地域創生を国にしっかり働きかけていく。

今回の会議では、魅力あるまちづくりについて多くの事例が発表される。

○開催市 市長挨拶

長崎市長 田上 富久 氏

コロナ禍、そしてパンデミックが重ねて襲ってくる現状、これを踏まえた都市問題を考えなければならない。

今回のプログラムの最後には、長崎女子高等学校の龍踊部による龍踊が披露される。女性だけでは龍踊はできないという意見もあった。しかし、教師たちもこれは大きな教育効果があると考え取り組んだ結果、3年で龍踊が形になった。

この学校にお子さんを通わせる親御さんからも、入学時には金髪だった娘が、龍踊部に入り、人が変わったように勉強するようになったとのことだった。

今回、長崎での開催を機に是非とも長崎の美味しいものを食べ、観光地にも訪れて頂きたい。

○来賓祝辞

長崎県知事 大石 賢吾 氏（代読）

DXの推進などから、今回の会議では魅力あるまちづくり、魅力ある都市になるように活発な意見交換をして頂きたい。そしてこれをフィードバックして各地域の発展にご尽力いただきたい。

西九州新幹線開通に伴って駅周辺の建物の整備を実施しました。

長崎県内の2つの世界遺産、4つの自然遺産などを是非ともご堪能ください。

●基調講演●

株式会社ジャパネットホールディングス代表取締役社長 兼 CEO

高田 旭人（たかた あきと）氏

1979年 長崎県生まれ。

東京大学卒業後、証券会社を経て、ジャパネットたかたへ入社。

バイヤー部門、コールセンター部門、物流部門の責任者を経て、2010年にジャパネットコミュニケーションズ代表取締役社長となる。

ジャパネットたかた取締役副社長を経て、2015年1月、ジャパネットホールディングス代表取締役社長に就任。

2019年には通信販売事業に加え、スポーツ・地域創生事業をもう一つの柱とし、更なる取り組みを進めるリージョナルクリエイション長崎を同年6月に設立。

2020年にはBS放送局の開局を見据えてジャパネットブロードキャスティングを設立し、現在に至る。

ジャパネットたかたと地域創生

創始者で父の高田明氏はラジオからテレビ、チラシ、カタログ、インターネットで品物を売る新しいショッピングの形を生み出した。

地域が支えてくれたからこそ、今度は地域を支える番だと言うことで、2017年からプロサッカーチーム『V・ファーレン長崎』の運営を始めた。

通販事業に並ぶ2本目の柱として、スポーツ・地方創生事業を掲げた。

2020年には、プロバスケットボールクラブ『長崎ヴェルカ』を立ち上げ運営している。

現在、長崎駅前にスタジアム・アリーナや商業施設、ホテル等で構成するまちづくり『長崎スタジアムシティプロジェクト』を進め、2024年の開業を目指している。長崎を盛り上げたい、長崎の人口を増やすには、特徴あるスタジアムシティを作りたい。そんな中でのアイデアには・・・

○隣接するホテル

○6,000人収容のスタジアムが1,000人で使っても5,000人で使っても空席が無いように見える仕掛けがしてある。

○横にはオフィス棟があり、会議室などからスタジアムが見えるようになっている。

○商業施設に隣接して医療ツーリズムに使えるように医療法人と話し合っている。

○スポーツクラブなどに子どもを送った親が迎えの時間までを空しく過ごさないような仕掛けがあちこちに作ってある。VIPルームを30室設ける。このVIPルームも試合が無い日はホテルとなり、壁を下ろせばベッドになる。

○スタジアム内には放送局を置き、ここのスタジオから生放送や収録した番組で情報発信をする。

○オフィス棟からスタジアムに向けてはジップラインを作って楽しませる。

○駐車場はICT利用、キャッシュレスでスマホが無いと利用できない。すると、スマホが無い方への差別となるが、現地でスマホを売るなど対応した。またはサブスクとする。

○駐車料金と施設利用料金や購入料金を紐付けして、長くいればいるほど得する仕組みを作る。

○長崎大学の大学院をここに誘致したため、これを利用する企業もテナントとしてオフィスを利用する。

○年間シートやVIPルーム、高速Wi-Fiのサービス、語学とスポーツを連動して、サッカーやバスケの練習はすべて英語でやっている。

○長崎出身の福山雅治を起用して、長崎スタジアムシティプロジェクト『始動篇』120秒Ver.「光」を制作しYouTubeで公開している。

時代は、父明の頃のように寝る間を惜しんで仕事をすることに疑問を持つこととなった。今は、東京でシャカリキになって仕事をするのではなく、地方でいかに効率よく仕事をするかが目的となる。

○勤怠ルールをしっかりと作る。

- ・ 残業はさせない。
- ・ 自宅にPCを持ち帰らせない。
- ・ たかたでは昼食を15食分プレゼントしている。
- ・ フリーデスク化をしてキャビネットを撤廃する。
- ・ 一人が自由に使えるために与えられるスペースは、ラップトップ1台とファイル1冊程度が入るロッカー一つ分だけである。
- ・ 備品は、オフィスの中央にステーションナリーのコーナーとして置き、文房具などはそこから貸し借りする。
- ・ 社長の勤務時間は8時半から18時までである。時間になったらすぐに帰る。

○クルージング事業への展開

たかたでは今クルージングを販売している。横浜を出て日本一周をする。これはかなり評判である。

地元を盛り上げたいのだが、なかなか民間企業の社員ではできることに限界がある。そこを行政が手を差し伸べる、議会も同じことである。これから日本は厳しくなっていく、海外に行っても日本の存在価値が下がっている。

これを何とかしたい。

●主報告●

田上 富久（たうえ とみひさ）氏

長崎県長崎市長。1956年長崎県五島市生まれ。九州大学法学部卒業。

1980年長崎市役所へ入所。2007年4月に第32代長崎市長に就任。

現在第35代長崎市長として4期目を務める。

観光客の増加、企業誘致、平和発信、行財政改革などに成果を挙げる一方、福祉、医療、教育、防災、環境など安全安心な暮らしづくり、まちなかの整備や道路・公園整備などのまちづくりの面でも一步一步着実に前進している。

明治から平成で長崎市は合併を繰り返し、面積が1.7倍になったが、人口密度は1ヘクタールあたり130人が70人になった。『ネットワーク型コンパクトシティ』これは長崎の街にあった地域創生であり、都市計画型マスタープランにもしてある。

コンパクトシティをネットワークでつなぎ、都心部の機能のレベルを落とさずに地域に活かすことが目標。どこに住んでいてもそこにはない機能がすぐに使える安心。活力と暮らしやすさを追求するために、市内に空き地が少ないためパズルのように色々なものを移動させて広い土地を作っているのが現状。

長崎は埋め立てをして作ってきた街なので、狭いためこれを逆手に取って『長崎サイズ』と言っている、アーケードの幅も長さも小さいが、それがかえって人と人が触れ合う機会をふやしている。

西九州新幹線、新幹線と在来線の終着駅が同じ駅は、日本全国で長崎だけ。
東京ドームと同じむくり屋根で長崎の夜景にも貢献している。
出島メッセ長崎・・・ここから長崎の街に広がるイメージで作った。
イベント・ながさき大くち展が先日賑わった。祭ができないのなら、何かやろうよということで、このイベントが出来た。
長崎くんちは7年で一回りするのだが、このイベントは7年分を一気に見ることができた。
松ヶ枝国際観光ふ頭の拡張 2025 年完成予定。
国際的な観光客船を1艘から2艘泊まれるように拡張する。
『港あり 異国の船をここに招きて』
南蛮船の時代 → 出島の時代 → 唐人屋敷 → 居留地時代 →
上海航路 → 戦争 → 原爆 → 観光都市
時代の変遷期、昭和の観光都市 → 21世紀の交流都市。
観光だけでなく学術都市など交流の幅を広げる。
観光とは観光会社のモノでしょうと言う意見があるが、これは間違いでそれにかかわる市民皆のモノである、それが21世紀のまちづくりである。
観光まちづくりパートナー DMO⇔長崎市
公共の在り方を民間の考え方で取り組もうと言うのがDMO。
市民・事業者・訪問客の三角形がバランスよく誰も損することが無いことが目標
まちの『価値』とは？
まちのOSを書き換えていくことである。
新しいアプリが動かないOSでは使えない。そのアプリを市民や大学が提案していく。
湯布院のまちづくりは閑古鳥が鳴いていて、奥別府と言う位置づけであった。温泉の経営者が借金をしてドイツバーデンバーデンを視察に行った。ドイツでは湯布院を日本のバーデンバーデンと言っている。
全国一行きたい場所、高度成長期に、静けさを求めていく街湯布院としてその風景を守り静けさに価値を求めた。
モナコ、香港、長崎が世界三大夜景に選ばれた。モナコはバチカンについて世界で2番目に小さい。
この狭い場所でF1をするが、できないと思う場所でやる、個性を強みにすることが大切。国・土地の狭さは全く関係ない。中国大陸から一番近い国際港として狭い土地などの個性を強みにする。
価値を見つける事、まちの魅力を見つけ、磨いていく。
見つける、産みだす、気づく、磨く、価値を見つける。
長崎市から恐竜の骨が発見された。これが何の骨かわからない、これを見つけたのは福井県立橋梁博物館の宮田先生、発掘された場所は、絶対にここにそれがあると気づかない、これは宮田先生は『あると思っているからみつかる。無いと思っていたら見つからない。』何でもそうだが、あると思っていないと見つからない町の魅力があるはずだ。
恐竜博物館を令和3年10月、軍艦島が見えるところにオープンした。

T-レックスのレプリカを展示。長崎とオランダのつながりを示す役割がある。

「長崎のもざき恐竜パーク」

『価値』に気づく・・・

軍艦島がその筆頭である。

昭和 49 年閉山し、日常的にだれもが何の価値も見いだせずに見ていた、これを世界遺産にしたいと言い出した人がいた。それが平成 27 年に世界遺産になった。

キリシタン関連遺産は、長崎・天草地域として成立した。

長崎さるく・・・街歩きは 20 年ほど前からやっている。

長崎では（ぶらぶら）歩くことを「さるく」という。

訪問客が『まち全体』を楽しむ。

案内人になりたくなかったコースづくりをした人全員がいつしか案内人になってしまった。

『きっと見つかるあなたにぴったりの長崎の街歩き』

『素通りの街から、ストーリーのある町に』大村市長

『NAGASAKI STORY』という取組にしていった。

価値を磨く

平成 25 年から高尾忠志氏地域力創造デザインセンター代表理事。

ミッション・①職員育成、②公共事業のデザインの指導と管理

鍋冠山展望台の改修 リニューアル 稲佐山との違い

出島表門橋の架橋 これらがグッドデザイン賞を受賞する。

橋拭き活動を市民参加で行う。

喫茶アンシャンテ 遠藤周作の奥様が名付けた ここも周防灘が美しく見えるように、ここに来ると自分の内側が見つめられる施設に改修『思索空間 アンシャンテ』になった。

『まちぶらプロジェクト』まちなかを母屋として、町屋の改修を行う。

マリア園、養護施設だった、ラグジュアリーホテル開発（森トラストが）2024 年開業予定。

高度安全実験施設BSL-4 と言う施設 2021 年感染症の研究施設。

大学の存在は重要である ライデン大学の交換条件で作られた。

H a f H ハク 旅のサブスク 17 か国 171 拠点あって、第一号が長崎である。

『さかのうえん』 坂と農園を結んだ、空き家の跡地を農地に使った 若者中心で地域活性化、中心人物は市職員で、市役所の仕事が無いときに活動している。

地域課題が資源になるマイナス評価から逆転の発想。

空き家・空き地→若者の住まい・活動拠点。

価値に気づくために・・・

風の人⇄土の人 そとからやってくる人と地元の人

風の子は若い人 土の子は高齢者 交流が大切。

長崎らしい暮らしやすさ。

歴史と自然が作り出す食べ物。

『ここにしかないちょうどよさ』

おわりに

まちづくり・・・『天の時と地の利、人の輪』行政の得意分野は民間の不得意分野であることを認識してほしい。

●一般報告● 1

田中 輝美（たなか てるみ）氏

島根県立大学地域政策学部准教授。島根県浜田市生まれ、在住。大阪大学文学部卒。山陰中央新報社記者として琉球新報社との合同企画「環りの海」で2013年新聞協会賞受賞。

2014年、同社を退社し、フリーの「ローカルジャーナリスト」に。

大阪大学大学院人間科学研究科で博士（人間科学）を取得し、2021年、島根県立大学地域政策学部に着任。

著書に『関係人口の社会学』（大阪大学出版会）、共著に『みんなでつくる中国山地』（中国山地編集舎）など。

地域との新しい関わり方について『関係人口』

何度も訪れたい場所、都市の新たな魅力と関係人口。

講師は乗り鉄で、何々線の何駅と言えばその町がわかる。

ローカルを専門に執筆・研究、鉄道関係の著書が多い。

・島根県用瀬町 もちがせ週末住人の家

住民が公立鳥取環境大学生のゲストハウスで空き家利用。

週末になると、地域外の学生などが集まって週末住人となる。

人口をシェアしよう。

都市部から引っ張り込むのではなく、週末だけ遊びに来てもらおう。

・島根県雲南市・草刈り応援隊

年に数回、近隣县市町から通って草刈りしてくれる。

そのあと、地域住民と美味しいお米で交流するのが楽しみ。

2020 最初は中止したが多くの参加者からやってくれと催促。

主催は地元団体 草刈りが楽になったと言うよりも活動が楽しい。

・島根県色南町

1947年→2021年で人口が8割減、高齢化率58%。

人が通ってくる地域。

駅をライトアップ、それを見に来たのではなくて、

イルミネーションを飾り付けて、片付けまでやりに来る人が外から通ってくる

『イルミを見るだけでない、働くツアー』。

宇津井駅を中心としたイベント多彩に・・・。

山に入り竹を切って、流しそうめん。日本一の書初め大会。

バカバカしいことを一生懸命。

廃線跡地にトロッコを運行。

こんなに若い世代を含めた人々がなぜ通ってくるのか？

ヒント 三つのキーワード

- ・名前が覚えられる規模 量より質
- ・準備から片付け、打上げまで一緒に 脱お客様は神様
- ・住民の思いや背景も伝える（ストーリー化）

背景にある2つの変化

- ・地域の変化、人が減ったことで遺物性を持つ
- ・若い世代の変化、つながりに関心を持つ

=新しい潮流がうまれる

東京で起こっていることは、『ふるさと難民』、今や多数を占める東京生まれ育ち。近所に顔見知りがない、愛着がもてない。

「ふるさと難民」、ふるさとがほしい！

ふるさと=つながりに憧れる

つながりこそが価値であり資源。

第一世代 自由をもとめて地方から都市へ。

ふるさと難民、自由過ぎてつながりがない。

ふるさと=つながりに憧れ、さらなる世代。

島根 667,079人 東京 13,957,977人

どちらが良いか、分母に人口を当てると島根が良くなる。

ふるさと難民の行動、休学して半年や一年、地域インターン。

旅は物足りない、もっと人と関わりたい、でも移住は簡単に出来ない。

関係人口・・・2016年に生まれた新語。

都市も地方も人口はどんどん減ってゆく。人口減少時代の到来。

毎年60万人ほど減少している。

これまで取り組まれた2本柱。

交流・観光、関係人口、移住・定住。

固定的に考えなくて良い 人生やキャリアに応じて対応。

繰り広げられた移住・定住合戦。

誰かが勝っても誰かが負ける、ゼロサムゲーム。

地域での交流疲れ、都市農村交流、観光へ。

第三の選択 観光以上定住未満。

観光客、交流人口との違い、交流観光との違い。

トロッコ、運転は地元、乗客は交流人口、スタッフと同じジャケットを着て応援している『関係人口』。

関係人口の意義 どの組織も増やせて、過剰に奪い合わなくて良い。

限られた担い手をシェア共有する考え方。

関係人口の関りパターン。

買う、応援消費、アンテナショップ。

おてつたび（お手伝い+旅） 全国各地 三重県

知らない町へ旅をしよう。

空き家リノベーション。

リトルフクオカ、東京で福岡。

残念ながら人口は増えない

減る、少ない中で幸せな社会や組織を作っていけば良いか考える必要がある

よそ者に何ができる？

- ・地域の再発見効果
- ・誇りの涵養効果

関係人口の候補者、予備軍はたくさんいる。

地域に関わりたい都市の若者たち。生まれ育った出身者。

転勤や進学で済んだ人たち。過去のイベントに関わった人。

- ・ゼロから無理やり『創出』しなくても良いはず。

関係人口から生まれたらしい「インフラ」。

関係案内所 観光案内所ではない。

ゲストハウス、カフェ、コワーキングスペース、ハウスシェア office

必要な機能、建機案内人を中心としたコミュニティ。

公共交通機関特に鉄道、インバウンド若者。

最低限のインターネット環境があれば良い。

コロナ時代だからこそたいせつにしたい。

- ・『とりあえず関係人口』はさけ『しっかり関係人口』をつくる
- ・近く（県内・市内）の関係人口に目を向ける
- ・通う以外の関わり方も考える

地方（都市＝個性）って何だろう？

○おわりに

時代は変わった、つながりがほしい、地域に関わりたいと言う人たちがいる。

活かすか活かさないか、それは地域次第です。

●一般報告● 2

佐藤 孝弘（さとう たかひろ）氏

山形県山形市長。1975 年生まれ。東京大学法学部卒業後、経済産業省に入省。

中小企業庁にて税制改正などを担当。

退官後、自営業を経て政策シンクタンク東京財団研究員として経済政策を提言。

2011 年 9 月、山形市長選挙に立候補し、次点。

2015 年 9 月、第 18 代山形市長に就任。

現在 2 期目。全国市長会東北支部長、東北市長会会長、山形県市長会会長、中核市市長会副会長 を務める。

著書に「M&A 国富論」など。

選ばれる地域の時代

- ・他にはない町の魅力を磨いて発信する
- ・それを加速するための市としてのビジョンを内外に示したうえで具体的な施策を打ち出していく

- ・ビジョンと具体的な施策のリンクに徹底してこだわる

○山形市の概要

24万人。ベニバナ。太平洋と日本海と等距離。

飛行場は山形空港だが山形市にはない。

扇状地の上、山形盆地に市が展開する。

57万石の城下町。

山県伝統の鋳物で作った二本足で立った銅像 最上義明像。

ベニバナ商人、江戸時代は特産品、商都として栄える。

蔵王温泉と日本一の樹氷。

山県花笠まつり、今年3年ぶりに路上でできた

フルーツ、シャインマスカット、ラ・フランス、サクランボ、いちご、
などがふるさと納税の稼ぎ頭。

芋煮会、毎週やっている、河原などで。

日本一の大なべを使ってやっている、全国的に知られている。

ドイツライン川・セーヌ川などでも似たようなイベントをやることになる。

市長になるまえに山形市の強みをみた。

- ・医療資源が豊か

山形大学 東日本重粒子センター がん治療

- ・豊かな自然と安心・安全の食材、温泉

・文化芸術 山形交響楽団 フルオーケストラ 山形国際ドキュメンタリー映画祭
東北芸術工科大学とリノベーション・まちづくり、舞子・料亭文化や伝統工芸、茶室を市が持っている

2017年 ユネスコ創造都市ネットワーク加盟認定。

山形市のビジョン

- ・健康医療優先都市

医療・先進については市立病院済生館の充実と山形大学医学部との連携によって推進。

健康については市民の健康寿命延伸が最大の課題

歩くこととそれを補完する公共交通の充実をまちづくりの中心に。

これについて・・・

地方都市＝車社会、鉄道・バスは採算が取れないと廃止されていく。

自動車の使用を控えてくれることで環境問題にもなる。

歩くことで健康を保てる ある程度歩いたら景品がもらえるシステム。

国交省のウォーカーブル推進都市。

山形市の歴史資産『山形五堰』、お城に向かっている御殿堰。

水の町屋、冬期間でも安全・快適に歩行できるよう消雪道路の整備。

↑

これをつなげてネットワーク化する。冬でもジョギングできるような街づくり。

シェルターインクルーシブプレイス『コパル』。

新しい地域公共交通計画 令和3年3月。

コミュニティ交通のさらなる充実に向けたモデル事業。

電動シェアサイクル導入 令和4年10月 自動車に対抗するには大変である。

・文化創造都市 他の街にはないものがある

市民の更なる参加・共有、「やまがた秋の芸術祭」。

準学生寮プロジェクト「山形クラス」。

アーティスト・イン・レジデンス 海外のアーティストを呼ぶ。

まとめ

ビジョンを掲げたうえで、それを具体化する事業。

政策を次々と展開、それに呼応して市民・企業などがその方向性に合致する取組をはじめ・全体として街の個性が良く濃くなる。

まちづくりの共通言語としてのビジョンの重要性。

市政懇談会や経済団体会議での講話。

山形市役所 1,500 人研修 市長部局全員

おわりに

人口減少、今既に生まれている人の人数でかなり先まで予測が出来てしまう。

今現在の定住人口が増えていくようにしたい。減らないようにするには。山形市は中核的な市であるので、都市機能を持たせる必要がある。

AI など今あるシステムを利用して市政を取りくむ。

●一般報告● 3

高尾 忠志（たかお ただし）氏

一般社団法人地域力創造デザインセンター代表理事。

1977 年生まれ。博士(工学)。技術士(建設部門)。東京大学大学院修了。

九州大学特任准教授。

2013 年度より長崎市景観専門監に就任し、長崎駅周辺、新庁舎、出島表門橋・公園、まちなか夜間景観、恐竜博物館、稲佐山スロープカー、鍋冠山展望台、長崎居留地歴史まちづくり等、多くの事業を監修しながら職員の人材育成に努める。

2020 年 4 月に一般社団法人地域力創造デザインセンターを設立して代表理事に就任。

総務省地域力創造アドバイザー。

長崎市の公共事業のデザイン。

低次の欲求より高次の欲求がみたされないとインセンティブとは考えない。

オリジンをオリジナリティに育てていく。

100 以上の事業を監修してきた。稲佐山や出島など。

第2日 10月14日(金)

●パネルディスカッション

◇コーディネーター◇

大杉 覚（おおすぎ さとる）氏
東京都立大学法学部教授

◇パネリスト◇

野口 智子（のぐち ともこ）氏
ゆとり研究所 所長

長崎県雲仙市 事起こし モノづくり 観光などがつながっていない。

『雲仙人（くもせんにな）』会議室での会議ではなく、民家など違った場所で会議をする。

宿の経営者が近くで市民が何をしているか知らない 農家を見に行くことで地元の食材を使った料理ができるよう担う。

フルーツツーリズム、フルーツ農家と和菓子屋を会わせてフルーツの和菓子、お茶会、流派を飛び越えて、フルーツ流という流派を作る、これでお茶会。

桃畑で枝の選定、枝を処分せずに焚き木、桃畑で焼き芋。

◇パネリスト◇

田中 敦（たなか あつし）氏
山梨大学生命環境学部教授

ワーケーション ワーク×バケーションは菅総理が広めた
行政、関連事業者、隠れワーケーター。
企業向け普及啓発パンフレット。

◇パネリスト◇

桐野 耕一（きりの こういち）氏
NPO法人 長崎コンプラドール理事長

2006年長崎さるく 街歩き博覧会を開催。

長崎にとって観光は市民にも大切な基幹産業。

2003年からお金が無くてもお客を呼ぶ方法を現市長が考えた。市民が街の自慢をしよう。誰がやるの、市民でしょう（危険な賭け）。

昨日タクシードライバーが言った『坂・墓・バカ』が長崎県民性。

さるくの結果はとても良い結果であった。

長崎のまちに暮らしている人々が自分たちのまちの良いところを知るところとなる。

博覧会の頃には500人近いガイドさんがいた。

選ばれる街になった、市民が街に気づかされるまちとなった。

10分でさるく博を話すのは難しいが、街を歩くのは待ちに気づかされると言うこと。

博覧会で市民は町になにか関わりたいと思っているのだが、10人に1人くらい関わった。これは市民がやっている街づくりにつながった。

博覧会が終わったら、それで終わるのだが、長崎は物を作らず人が人を作ったので、人が残ったことが良かった。長崎の日常となった。

自分たちのまちに気づける街歩き、市長がやっていたことが今も続いている。

さるくからまちブラへ・・・。

◇パネリスト◇

都竹 淳也（つづく じゅんや）氏

岐阜県飛騨市長。岐阜県庁まで2時間、富山県庁まで1時間。

人口減少先進市。30年で全国平均の倍くらいの速度で人口が減少する。

飛騨は観光地。アニメ映画『君の名は』、これで有名になる。

10,183人全国の飛騨市ファンクラブ、楽天でマネージ、会員に名刺、究極のねずみ講、ファンの集い、東京で3回、岐阜で3回、大阪で1回、飛騨市で3回。

皆様の市町で場所を提供していただければ市長が飛騨牛と酒を持っていく。

市長自らまち案内をしている。市長はタダで使え、参加した人は飛騨のファンクラブ会員に自動的になる。会員からふるさと納税がずいぶん入る。ファンクラブ専用ネットショッピングサイト。その中から関係人口 飛騨市関係案内人「ヒダスケ！」

「ヒダスケ！」は市から与えられるポイントでお困りの方を助ける。

高齢者の手伝いなど、石積み、草刈り、みょうが畑を手伝ってmyみょうが畑とする。

収穫・集荷など手伝っても「ヒダスケ！」。新聞掲載、SNS発信も「ヒダスケ！」。主催者をヌシと言う。サポートクラファン、そのうち関係人口の一部が移住するが、ほとんどは移住しない。滞在人口が大切。

関係人口 1 関心人口 2 交流人口 3 行動人口 楽しい・うれしい・面白いがテーマ。

◇パネリスト◇

藤原 保幸（ふじわら やすゆき）氏

兵庫県伊丹市長。移住する方に関西人気ナンバーワン。

清酒は、伊丹で作られた。

東京に行って『伊丹からきました』と言ってもわからないので『神戸の方から来た』と言うと分かってくれる。

シビックプライドが足りない。

外からくる人々が伊丹の事を知らない。

伊丹大使制度、観光大使はよくある。市民を大使にする。

日本最古の酒蔵 旧岡田家住宅。

■所感

まず、盛り上げるべき市町を大好きになるように仕掛けることが第一と感じました。各市町のファンクラブ制度、ふるさと納税の応援・支援、市民参加型イベントを絶え間なく行うことが、強いては市民自体が観光案内人になっていくことにつながりそうだと感じました。

これなら江南市でもシビックプライドを持ってやれそうだと思います。実際この講座を聞いて、今まさに進めようとしているイベントに自信ができました。

江南市ナンバーワンの気持ちで臨もうと思います。